

受験番号	
------	--

令和4年度  
摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程(B課程)  
受講試験問題

## 専門科目 I

実施日 : 令和3年12月5日(日)

実施時間 : 9:30~10:20(50分間)

<注意事項>

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. この冊子の本文は、8ページ30題です。
3. 印刷不鮮明な箇所および脱落などがあれば、ただちに申し出てください。
4. 解答用紙は1枚です。解答はすべて解答用紙の指定された解答欄に記入してください。
5. 受験番号を、問題用紙と解答用紙の受験番号欄に記入してください。
6. 答案が完成しても、退室することはできません。
7. 問題用紙は試験終了後に回収するので、持ち帰らないでください。

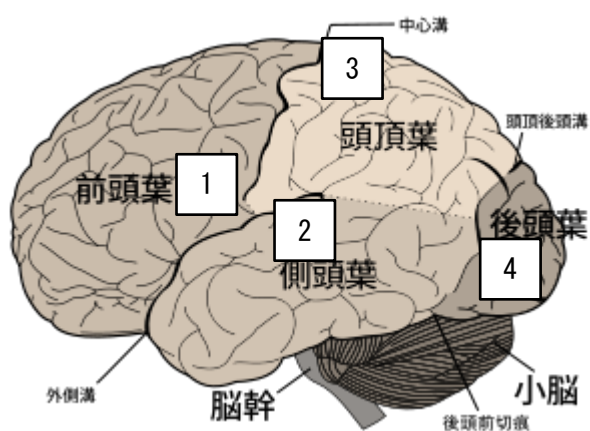


問題1 問 1～問 10 の各設問に対する答を一つ選び、解答用紙の所定の欄に番号を記入しなさい。

【問 1】 脳の機能局在で正しいのはどれか。

1. 視床は自律神経系の最高中枢である。
2. 小脳は平衡機能や筋緊張、姿勢保持に関与する。
3. 大脳基底核は本能行動や情動反応、記憶に関与する。
4. 頭頂葉は感情や判断力、創造などの精神活動に関与する。

【問2】 聴覚性言語中枢はどれか。



【問3】

【問4】 脳幹の栄養血管はどれか。

1. 内頸動脈
2. 外頸動脈
3. 椎骨動脈
4. 後大脳動脈

【問 5】 迷走神経の機能はどれか。

1. 顎運動
2. 舌運動
3. 舌後方 I /3 の味覚
4. 腹腔臓器平滑筋の運動

【問 6】 咽頭期に開始するのはどれか。

1. 食道入口部開大
2. 軟口蓋挙上
3. 口唇閉鎖
4. 舌尖挙上

【問 7】 準備期の障害はどれか。

1. 食物の認知ができない。
2. 咀嚼中に口角から食物がこぼれる。
3. 食事中に鼻汁が増加する。
4. 嚥下時にむせる。

【問 8】 プロセスモデルにおいて食塊が形成される部位はどれか。

1. 舌尖部
2. 舌背部
3. 中咽頭
4. 食道入口部

【問 9】 嚥下の 5 期モデルにおいて、不随意に起こるのはどれか。

1. 先行期
2. 準備期
3. 口腔期
4. 咽頭期

【問 10】 口腔・咽頭の運動に関わる神経伝導路はどれか。

1. 外側皮質脊髓路
2. 皮質延髄路
3. 前脊髓視床路
4. 前脊髓小脳路

問題2 問 11～問 30 の各設問に対する答を一つ選び、解答用紙の所定の欄に番号を記入しなさい。

【問 11】 喉頭に関する記述で誤っているのはどれか。

1. 発声器官である。
2. 声門より下方を喉頭前庭という。
3. 甲状軟骨内部に声帯が存在する。
4. 喉頭蓋の感覚支配は上喉頭神経である。

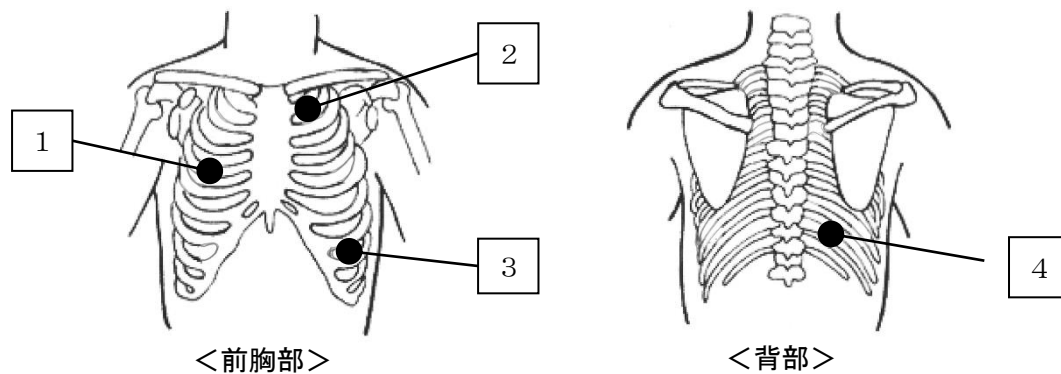
【問12】 肺炎による長期臥床で生じにくいのはどれか。

1. 徐脈
2. 無気肺
3. 関節拘縮
4. 筋力低下

【問 13】 嚥下機能の悪化要因でないのはどれか。

1. 加 齢
2. 気管カニューレ挿入
3. 経鼻経管栄養チューブ挿入
4. アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬の内服

【問 14】 臥床患者の呼吸音で、重点的に聴取すべき部位はどれか。



【問 15】 異常な呼吸音とその原因疾患の組合せで正しいのはどれか。

1. 笛声音----- 気胸
2. 捻髪音----- マイコプラズマ肺炎
3. 水泡音----- 気管支喘息
4. 類鼾音----- 胸膜炎

【問 16】 食事場面のアセスメントで誤っているのはどれか。

1. 食事中に鼻汁が増えたため、鼻腔への逆流を疑った。
2. 皿の左半分の食物を残していたため、食欲低下を疑った。
3. 嚥下後に湿性の嘔声が聞かれたため、咽頭残留を疑った。
4. 舌上に食物残渣がみられたため、舌の運動機能低下を疑った。

【問 17】 加齢による嚥下機能の特徴で正しいのはどれか。

1. 咳嗽反射の閾値が低下する。
2. 口腔内の残渣物が減少する。
3. 唾液の粘稠度が低下する。
4. 食道入口部の開大量が減少する。

【問 18】 加齢に伴う生理的記憶障害で正しいのはどれか。

1. 長期記憶から低下する。
2. 物忘れの自覚がない
3. 行動障害を伴わない
4. 体験そのものを忘れる。

【問 19】 小児の成長・発達で正しいのはどれか。

1. 大泉門は、生後1年程で閉鎖する。
2. 基本的な運動発達は、頭部から下方へ進む。
3. すべての原始反射は生後4ヶ月頃までに消失する。
4. 体重は出生後1年で出生時の約4倍になる。

【問 20】 乳児が窒息を起こしやすい解剖学的特徴はどれか。

1. 鼻腔の間隙が広い。
2. 気道の直径が小さい。
3. 喉頭蓋の位置が低い。
4. 口腔内での舌の割合が小さい。

【問 21】 脳出血で誤っているのはどれか。

1. 危険因子として、高血圧がある。
2. 日中活動時よりも、夜間や起床時に発症しやすい。
3. 出血部位として頻度が高いのは被殻と視床である。
4. 頭部 CT において高吸収域として白く描出される。

【問 22】 前頭葉の障害に伴う症状はどれか。

1. 人格の変化
2. 感覚性失語
3. 半側空間失認
4. 平衡機能障害

【問 23】 筋萎縮性側索硬化症で正しいのはどれか。

1. 筋原性筋萎縮がみられる。
2. 感覚障害がみられる。
3. 記憶力低下がみられる。
4. 舌萎縮がみられる。

【問 24】 神経・筋疾患で正しいのはどれか。

1. 進行性核上性麻痺の症状には、筋強直がある。
2. パーキンソン病による振戦は、随意運動により出現し安静時に消失する。
3. 重症筋無力症の臨床的特徴には、骨格筋の易疲労性や日内変動がある。
4. ギランバレー症候群は、発症の数週間前に帯状疱疹ウイルスの先行感染を認める。



【問 25】 認知症患者の摂食嚥下障害について、正しいのはどれか。

1. 脳血管性認知症では、麻痺が嚥下機能に影響する。
2. 前頭側頭型認知症では、幻視による食事の中断がみられる。
3. レビー小体型認知症では早期から小脳症状が出現する。
4. アルツハイマー型認知症では、早期から咽頭期の障害がみられる。

【問 26】 舌全摘術後の嚥下障害の症状で誤っているのはどれか。

1. 食事時に鼻汁が増える。
2. 口腔内に飲み物を保持できない。
3. 食物をのどに送り込めない。
4. 嚥下後に湿性嘔声が見られる。

【問 27】 摂食嚥下機能のフィジカルアセスメントで正しいのはどれか。

1. 夕行の発声不明瞭なため、口唇閉鎖が不十分であると判断した。
2. 嚥下後に湿性嘔声と咳嗽を認めたため、不顕性誤嚥であると判断した。
3. 嚥下反射の開始直後に咳嗽を認めたため、嚥下後誤嚥であると判断した。
4. 口腔内全体に食物残留を認めたため、食塊形成が不十分であると判断した。

【問 28】 栄養管理として、正しいのはどれか。

1. 経口摂取が困難な場合、胃ろうが第一選択となる。
2. 経口摂取を中止することで、誤嚥性肺炎を予防できる。
3. 中心静脈栄養(total parenteral nutrition)では、微量元素が不足する。
4. PICC(peripherally inserted central venous catheter)からの高カロリー輸液投与は禁忌である。

【問 29】 酸塩基平衡障害とその原因の組み合わせで誤っているのはどれか。

1. 代謝性アシドーシス ----- 下痢
2. 代謝性アルカローシス ----- 腎不全
3. 呼吸性アシドーシス ----- 喘息
4. 呼吸性アルカローシス ----- 過呼吸

【問 30】 高齢者の蛋白質・エネルギー低栄養状態(protein-energy malnutrition:PEM)で正しいのはどれか。

1. 体脂肪の消耗はみられない。
2. 発症率は心疾患で最も高い。
3. 要介護度が高いほど PEM の発症率は高い。
4. 栄養指標は血清アルブミン 3.7g/dL 以下である。